

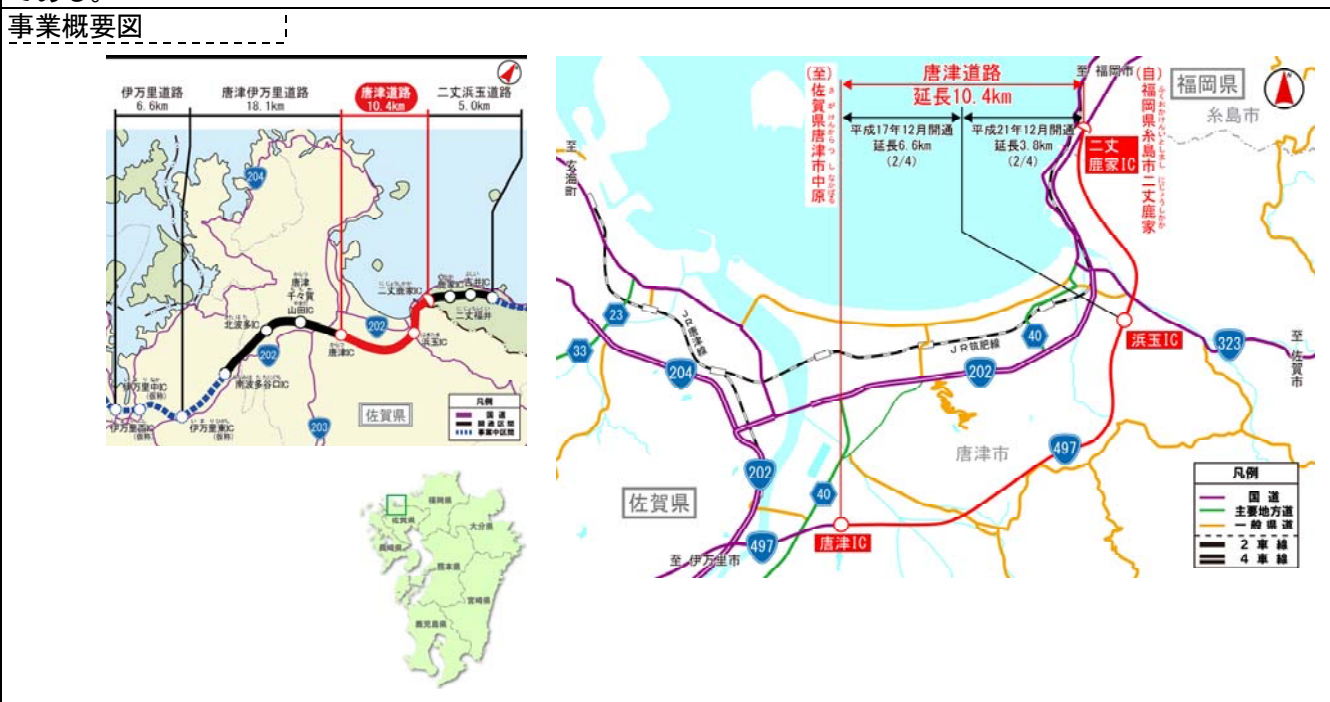
事後評価結果（平成26年度）

担 当 課：九州地方整備局 道路部 道路計画第一課
担当課長名：西ノ原 真志

事業名 からつどうろ 一般国道497号 唐津道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自：福岡県糸島市二丈鹿家 至：佐賀県唐津市中原	延長 10.4km	

事業概要
 唐津道路は、延長10.4km、4車線の自動車専用道路であり、昭和63年度に事業化し、平成21年度に暫定2車線で開通している。

事業の目的・必要性
 本事業は、西九州自動車道の一部を形成し、広域的な連携を図るとともに、地域振興等を目的とした事業である。



事業の効果等	事業期間	事業化年度：S63年度 都市計画決定：H3年度	用地着手：H4年度 工事着手：H7年度	供用年：(当初) H21 / H41 (暫定/完成) (実績) H21 / -	変動 1.00倍
	事業費	計画時 (名目値) - / 740 億円 (暫定/完成) (実績値) - / 658 億円	実績 (名目値) 637 / - 億円 (暫定/完成) (実績値) 555 / - 億円	変動 0.86倍	
交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成) 将来交通量(H42) - / 27,400~28,900台/日	実績 (暫定/完成) 10,526台/日 / -	変動 - %		
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	36.4km/h → 77.9km/h (供用直前年次)H17年度 (供用後年次)H25年度	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	136件/億台キロ → 99件/億台キロ (供用前年次) H14~H16年平均 (供用後年次) H22~H24年平均		
費用対効果分析結果 (前回再評価)	B/C : 1.2	総費用 : 845億円 事業費 : 818億円 維持管理費 : 27億円	総便益 : 990億円 走行時間短縮便益 : 739億円 走行経費減少便益 : 175億円 交通事故減少便益 : 76億円	基準年 : 平成20年	
	B/C : 1.2	総費用 : 965億円 事業費 : 916億円 維持管理費 : 50億円	総便益 : 1,115億円 走行時間短縮便益 : 922億円 走行経費減少便益 : 132億円 交通事故減少便益 : 61億円	基準年 : 平成26年	
事業遅延によるコスト増		費用増加額 : - 億円	便益減少額 : - 億円		

	<p>事業遅延の理由 特になし。</p> <p>客観的評価指標に対応する事後評価項目 <ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保（並行する国道202号の渋滞損失時間の削減：削減率約4割） ・物流効率化の支援（JAからつから関東・関西への所要時間の短縮：約15分短縮） ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成：福岡市～唐津市間の所要時間の短縮（約4分短縮）） <p style="text-align: right;">他12項目に該当</p> </p> <p>その他評価すべきと判断した項目 <ul style="list-style-type: none"> ・唐津市への進出企業数の増加（開通後H18～H25の進出企業数13社） ・製造品出荷額の増加（1.2倍（H24/H17）） ・浜玉IC、唐津IC付近の人口が増加（唐津IC付近1.2倍、浜玉IC付近1.1倍（H22/H7）） </p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目 当該道路は、環境影響評価を平成3年11月（浜玉IC-唐津IC間）、平成4年10月（二丈鹿家IC-浜玉IC間）に実施しており、予測評価の結果、大気質、騒音、振動、動物、植物のいずれも環境保全目標を満足している。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 並行する国道202号の騒音値が低減し、環境基準値を下回る（昼間：70dB→68dB、夜間：67dB→63dB）。</p>
事業評価監視委員会の意見	<p>審議の結果、事業の効果が発現しており、当該事業に関しては、今後の事後評価及び改善措置は必要ないとした事業者の判断は妥当である。</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・唐津市の人口は、減少傾向にあるが、一世帯あたりの自動車保有台数は、九州全体を上回っている。 ・並行現道の交通量は、唐津道路開通後、減少。 ・唐津市の産業別就業人口割合は、第一次・第二次産業が減少し、第三次産業が増加。 ・製造品出荷額は、平成2年以降減少傾向であったが、近年増加傾向。 ・観光入込客数は、減少傾向。
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的に見合った事業効果の発現が確認されており、更なる事後評価の必要はない。 ・唐津道路の整備により、「地域振興」等について、現状では一定の効果が得られており、当面の改善措置の必要はない。
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・唐津道路は、広大な範囲（約9万㎡）の埋蔵文化財調査が必要となったが、県教育庁との十分な情報交換や調査工程及び必要人員の調整を行った結果、計画期間で本調査を完了させ、予定どおり整備を完了する事ができた。 ・今後も、事業期間の長期化をさけるため、広大な範囲の埋蔵文化財調査が必要な場合、計画的かつ十分な関係機関との連絡・調整が必要である。 ・事業評価手法について、見直しの必要性はない。
特記事項	<p>特になし。</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。